

青木小塾講師が教壇に

小県郡青木村の青木小学校で本年度、学習塾の講師が月一回ずつ全学年の児童に算数を教える。教育委員会と学習塾「花まる学習会」(さいたま市)が共同研究を行う

一環で、青木小は「児童の思考力を伸ばす狙い」と説明。塾側は公立学校で学習指導を实践、成果を上げることが塾の信頼につながるとしている。

県教委によると、県内で公立学校の教壇に塾講師が立つ例は把握していない。征矢野達彦・青木小校長は「外の風を入れ、教師も力量を伸ばすため取り入れられる部分があるのではないか」と話す。教育評論家の尾木直樹さんは、教師が塾講師のノウハウを参考にす

月1回全学年の算数指導

ることもあり得るとした上で、「こうした傾向が行き過ぎてしまつと、公教育の力を低下させかねない」と指摘している。

塾の高浜正伸代表が月に一回、一―六年生を二時限ずつ指導する。主に低学年はパズルのような教材を使って論理性やひらめきを育てる内容。高学年には、繰り返し返して学ぶのを楽しくするノートの取り方なども教える。

学習指導要領に従った授業は教職員が行い、高浜代表の授業は総合学習の時間を充てる。二十二日に高浜代表と児童、保護者が顔合わせをする。高浜代表による教職員対象の研修会も開く予定。
征矢野校長によると、同校は、

教師の力 伸ばす? 低下?

地域の人を講師に招く総合学習や自然体験といった「社会力」を重視してきた。本年度はその上で学力強化を目指し、チームティ―チングや地域住民による学習支援ボランティアを取り入れた。塾講師の指導も加えて充実を図る。

小岩井彰・村教育長と高浜代表が知り合いだつたことから双方が合意。野外体験が学力向上の基礎になるとの理念が花まる学習会と一致したという。花まる学習会が野外活動を行う構想もある。

本年度予算は、高浜代表の交通費などとして約三十五万円で、学習指導はボランティアという。花まる学習会は首都圏に四十五カ所を展開する学習塾。文部科学省によると、都内の公立学校では塾講師が授業をする例が出てい